

# 知的財産権訴訟における証拠

## 〔目次〕

●ご挨拶	日本弁理士会中央知的財産研究所所長 北村修一郎	i
●序文	主任研究員 小泉 直樹	iii
●研究部会研究員		iv
<hr/>		
・知的財産権訴訟における証拠収集 —民事訴訟法の観点から—	小林 秀之	1
・特許法 105 条 1 項の運用状況 —「必要性」・「正当な理由」を中心として—	高石 秀樹	13
・米国ディスカバリー手続を利用した証拠収集 —サムスン対アップル・スマートフォン事件を中心として—	大野 聖二	35
・アメリカのディスカバリー制度の概要と日本の証拠収集手続改善提案の比較法的分析	竹中 俊子	45
・トレードシークレット防衛法における Ex Parte Seizure（一方的差押）制度について	奥邨 弘司	59
・差押えに係るフランス法の実際 —欧州証拠収集制度の祖型—	駒田 泰土	76
・ドイツ特許訴訟における証拠調べ	Christof Karl	86
	竹中 俊子（通訳）	
・特許要件の証明責任の分配 —特許の有効性は推定されているか—	川田 篤	99
・審査・審判・審決取消訴訟・無効の抗弁をめぐる特許法の規範構造と「主張立証責任」	愛知 靖之	126
・冒認出願・共同出願違反の証明責任 —出願審査・特許無効審判・特許権侵害訴訟における発明者性—	君嶋 祐子	143
<hr/>		
●事項索引		163
●判例索引		166
●アンケート		171